音楽科事例

題材名　　曲の特徴をとらえて表現しよう

第５学年及び第６学年「A 表現」(1)歌唱の活動
〔共通事項〕(1)

1　題材の目標

「すてきな一歩」,「翼をください」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに，思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けながら，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，思いや意図をもって歌唱表現する。

これは，一文で示してあるが，(1)「知識及び技能」，(2)「思考力，判断力，表現力等」，(3) 「学びに向かう力，人間性等」の３つそれぞれで示してもよい。

2　本題材で扱う事項の内容

２内容　A 表現

（１）歌唱の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の特徴にふさわしい表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

イ　曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。

ウ　思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ｱ) から(ｳ) までの技能を身に付けること。

(ｲ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて，自然で無理のない，響きのある歌い方で歌う技能

扱う事項のみ記す。その他の事項は必ず他の題材で扱う

〔共通事項〕

（１）「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

（本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：リズム，旋律，反復，強弱，変化）

3　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 技思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて，自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。	思①旋律，強弱，反復，変化を聴き取り，それらと歌詞の内容や旋律の動きとの関わり合いを感じ取りながら，聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え，曲の特徴を捉えた表現を工夫し，どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	態①曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち，音楽を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習に取り組もうとしている。

4　題材の指導と評価の計画（４時間）

時間	◎ねらい　〇学習内容　・学習活動	◇指導上の留意点	知技	思	態
◎曲想を生かして表現の工夫をする。					
1	〇常時活動 既習曲「すてきな一歩」を歌う。 〇表現の工夫の効果を感じ取る。 ・既習曲「すてきな一歩」を歌う。 ・前半と後半の曲想の変化を生かすための歌い方について話し合う。 ・曲想の変化と強弱記号に気を付けて歌う。	◇表現の工夫をしないで歌ったものを録音する。 ◇旋律のまとまりごとにふさわしい歌い方について，どのように工夫したらよいか，話し合わせる。 ◇表現を工夫して歌ったものを録音する。	⇩		⇩

	・最初に録音したものと，表現の工夫をしたものを聴き比べ，感じたことを話し合う。	◇曲想の変化や歌詞の内容から考えた表現の工夫の効果を話し合う。 ◇どのような工夫をしたのか確認し，次時に生かせるようにする。			
2	○「翼をください」を歌ったり歌詞を音読したりして，曲想の変化や旋律の繰り返しなどの，楽曲の特徴に気付く。 ・どこで曲想が変化しているか確かめる。 ・歌詞を音読し，内容を理解して情景を想像する。 ○曲想の変化や歌詞の内容・旋律の繰り返し等を考えながら，歌い方を工夫する。 ・どんな工夫をしたいか楽譜に記入しながら考える。（個人） ・楽曲をＡＢＣの３つに分ける。 ・グループごとに，ＡＢＣのどこを工夫していきたいか決める。	◇前時の降り返りをして，表現の工夫の効果を確かめ合う。 ◇録音する。 ◇前半と後半で曲想が変化することを感じ取らせる。 ◇同じ旋律が繰り返していることに気付くようにさせる。 ◇自分なりの工夫が考えられるように，ワークシートに記入してくようにさせる。 ◇録音したものを聴きながら，考えるようにさせる。	① 知 記述・発言		
3	○曲想の変化や歌詞の内容・旋律の繰り返し等を考え，グループで歌い方の工夫を考える。 ・６つのグループ→３つのグループに分かれ，前時に考えた表現の工夫を話し合う。 ・グループごとに考えをまとめる。 ・グループごとに考えを出し，クラス全体で話し合う。 ○曲想の変化を生かし，歌詞の内容や旋律の繰り返しに気を付けて歌う。 ・歌詞の表す情景や曲想にふさわしい表現の工夫が聴き手に伝わったか，録音したものを聴き，話し合う。	◇３つのグループに分かれて，表現の工夫をした歌い方について話し合わせる。 ◇個人で考えたものが発表できるよう，拡大したワークシートを用意する。 ◇工夫した意図も伝え合うようにさせる。 ◇意見が食い違うところを中心に話し合わせる。 ◇それぞれのグループで出し合った表現の工夫をしながら歌い，聴いて確かめることができるように録音機器を用意する。 ◇表現の工夫の効果について，意見を交流させる。	① 技 聴取	② 記述・発言・聴取	
4	○さらに曲の特徴にふさわしい表現になるようにする。 ・録音した音を聴きながら，さらに工夫したいところを確認する。 ・工夫が伝わるような歌唱表現を練習したり，違う表現方法を話し合ったりする。 ・録音したり聴いたりしながら試す。	◇スタッカートやスラーなど，児童から出ていない表現方法も伝え，歌唱表現の幅が広がるようにする 。 ◇録音を聴かせ，自分たちで確かめられるようにする。	① 知 記述・発言		① 観察・記述・聴取

POINT１　音楽を形づくっている要素

教材２曲に共通していることは,「思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」が同じということである。例えば,本題材に鑑賞を位置付け,「鑑賞で気付いたことを,今度は歌唱表現に生かし学習する」という計画も考えられる。題材の中に,表現と鑑賞を関連させた題材構想は効果的だが,その時に鑑賞で扱う曲も歌唱で扱う曲と共通の「思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を学ぶことができる曲を選曲する。このようなことが「この曲を教える」のではなく「この曲で教える」ということにつながる。

POINT2　言語活動の設定

音楽科の言語活動で重要となるのが，言語での交流と音や音楽を介した交流である。他者の多様な考えを交流するときに,それを一緒に歌ってみたり,演奏してみたり,味わって聴いたりする等の活動を通し,自分の考えを調整したり深めたりしていく。

POINT3　実感を伴う学び

指導計画の中に知識・技能をどこに位置付けるかということは重要なことである。例えば，思いや意図をもって表現を工夫した演奏が聴き手にどう伝わっているか録音等をして客観的に聴く。そして，表現の工夫が聴き手に伝わらなかった場合，知識・技能を習得するチャンスとなる。知識・技能を習得する学習を行って再度，録音等をして客観的に聴き，知識・技能を習得することの必要性を実感を伴って気付かせることがポイントになる。